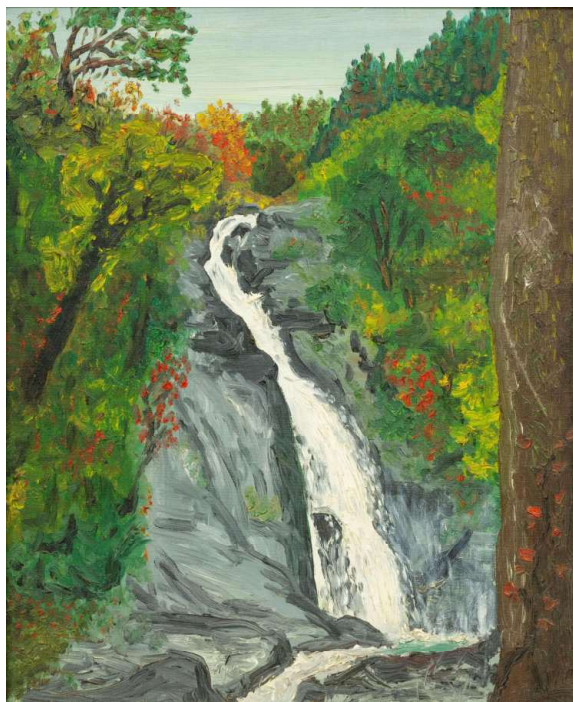


第4章

基本的な考え方

第4章では、調査や市民参加による討議、統計データなどからみえてきた課題を整理し、課題解決に向けてみんなで目指す姿である基本理念、理念の実現に向けた基本目標と、全体的な施策の体系をまとめます。

- 1 地域を取り巻く課題
- 2 基本理念と基本目標
- 3 取り組みの体系



作品名「観音の滝」

小形 健一 さん

【作品の紹介】

学生の頃から絵が好きで、七山の良さを伝えたい、残したいという想いがあります。

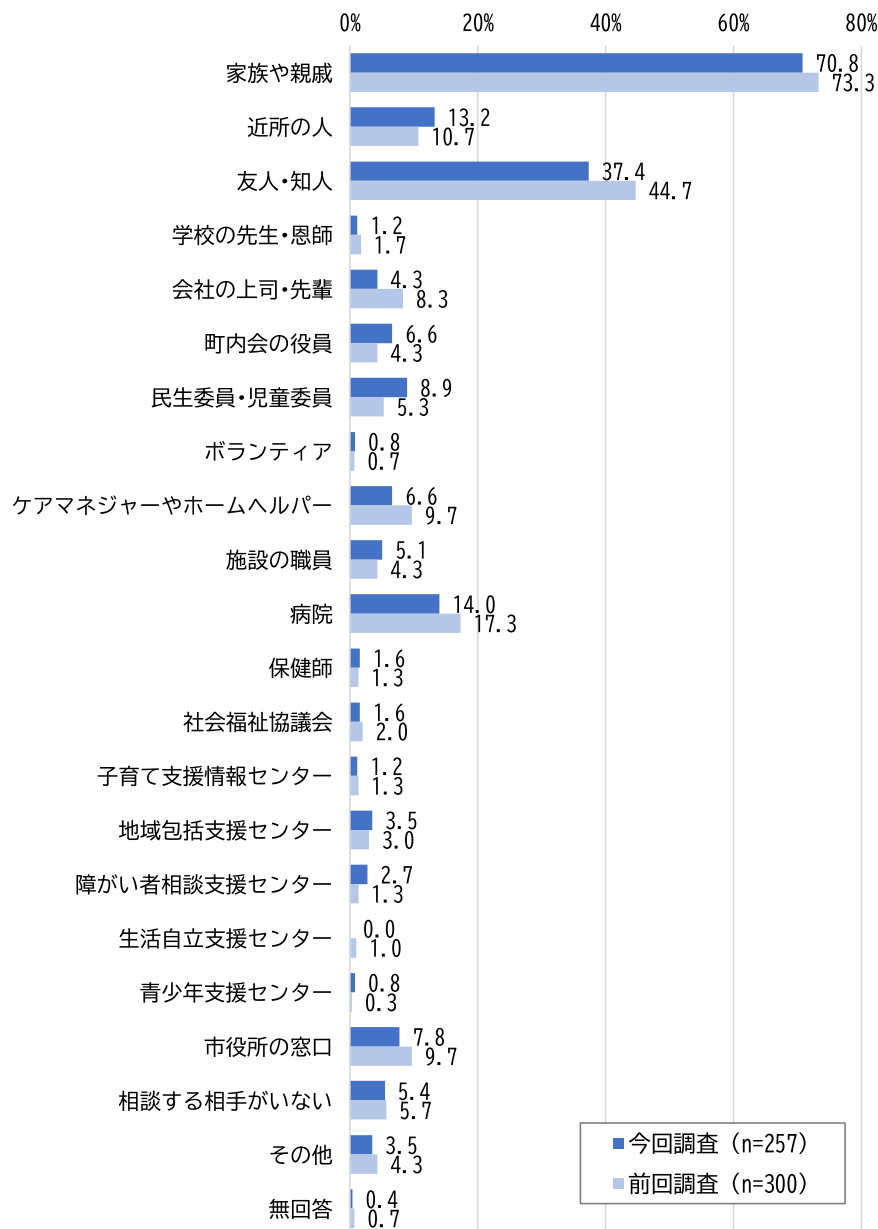
1 地域を取り巻く課題

(1) 誰もが安心して暮らせる社会

不安や悩みの相談先（市民意識調査）

不安や悩みのある人の相談先は、「家族や親戚」が70.8%と最も多く、「友人・知人」が37.4%となっており、「市役所の窓口」は7.8%となっています。前回調査と比べると、「近所の人」「町内会の役員」「民生委員・児童委員」が2.5ポイント以上増加しています。

複数回答



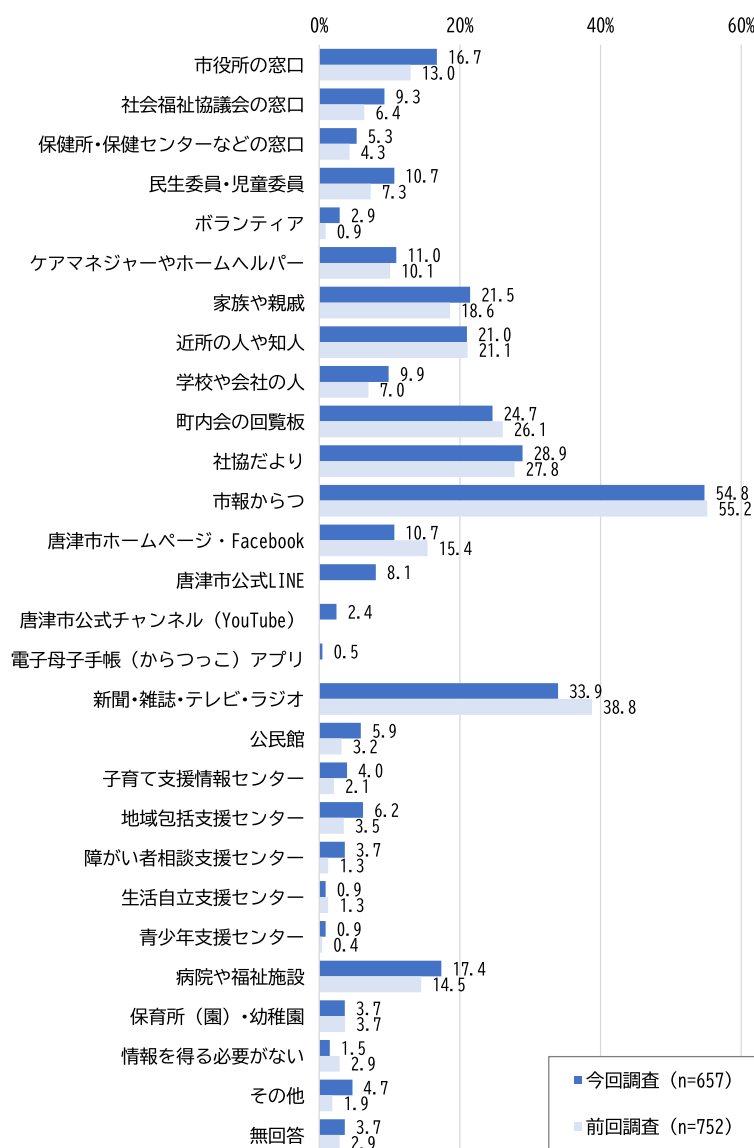
※以下「前回調査」とは平成29年実施の調査

家族や親戚、友人・知人に相談できない人や「相談する相手がない」人が、調査ではあまり選択されていない市役所の窓口や公的機関に相談しやすくすることが必要です。

福祉サービスに関する情報の入手（市民意識調査）

「市報からつ」が54.8%と最も多く、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が33.9%、「社協だより」が28.9%、「町内会の回覧板」が24.7%、「家族や親戚」が21.5%となっています。人からの情報や近隣の人の手を介するものでは「町内会の回覧板」が最も多くなっています。インターネットを介する「唐津市ホームページ・Facebook」と「唐津市公式 LINE」、「唐津市公式チャンネル（YouTube）」などの合計は21.7%と前回調査時の「インターネット・SNS」より6.3%増加しています。

複数回答



※「唐津市公式 LINE」「唐津市公式チャンネル（YouTube）」「電子母子手帳（からつっこ）アプリ」は前回なし。
「唐津市ホームページ・Facebook」は前回の「インターネット・SNS」と比較

子育て世代からのインターネット経由での申請手続きが増加傾向にあります。使い勝手の向上や媒体の周知のほか、「そこで有用な情報が得られる」と認識されるような工夫も情報発信側には求められます。

市報や社協だより、回覧板など利用の多い媒体は、より有効に活用できる可能性があります。

主な意見（分野別課題調査）

● 行政サービスを知っている方が少ない。まずは市がどのようなことを行っているかを高齢者に伝えてほしい。	高齢者福祉・介護
● こども食堂やNPO、団体などが各種取り組みをしているが、該当世帯への周知が難しい。	児童福祉・子育て支援
● 雇用者側が障がいの程度を理解していない。理解していても賃金の差別があるように感じる。	障がい福祉
● 中高年やいわゆる8050（あるいは9060）問題に対して、いかに就労支援をしていくか検討すべき。	地域福祉・生活困窮者支援
● 相談が少ない。相談者が困りごとがあっても隠されたりするので、把握できないことがたくさんある。個人情報保護のこともあり情報提供も難しいと思うが、課題が深刻な状態になる前に情報提供してもらいたい。	各分野横断的
● 相談に来られる家族の多くが、介護負担が大きくなるまで周囲に相談せず、どうしようもないと感じてからやっと相談に来られる。	高齢者福祉・介護
● 児童虐待の根底には孤立や閉塞感をつのらせている大人の問題がある。交流の場があれば閉塞感が和らぐこともある。	児童福祉・子育て支援
● 道路の点字ブロックが少ない、路側帯の白線が消えている所が多いなど、常に現状を把握して対応することが必要。	障がい福祉
● 認知症状のある方を把握すること自体が困難。初期症状を把握するために、自立している高齢者が集える場所をもっとつくとよい。	高齢者福祉・介護
● 核家族化や疎遠により主たる介護者やキーパーソンが不在・不明の方もいる。すぐに成年後見人の申し立てができない場合も多く、申し立てまでの間の意思決定で、臨時に代理があるとよい。	各分野横断的

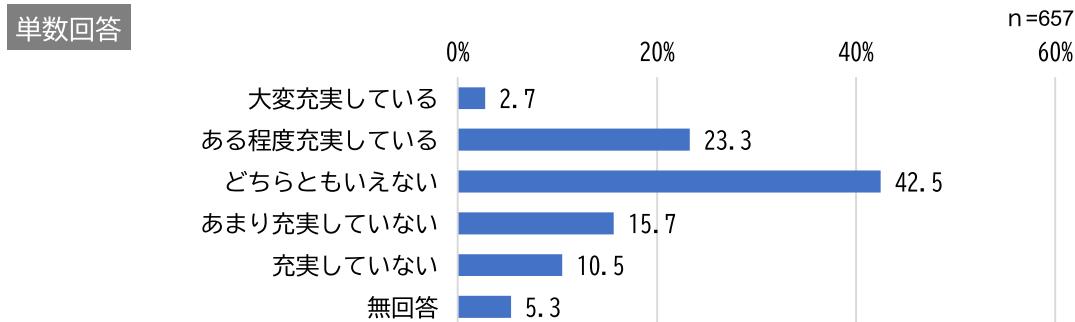
主な意見（福祉を考える会）

● 高齢者の集う場所がない。	高齢者福祉・介護
● 老老介護の問題が深刻化しているのではないかな。	高齢者福祉・介護
● 子育てに悩んでいる親が増加しているのではないかな。	児童福祉・子育て支援
● 子どもに関心を持たない親がいる。	児童福祉・子育て支援
● 発達障がい児が増えていると思うが支援につながりにくい。	障がい福祉
● 高齢・病気・障がいで働けない人がいる。	地域福祉・生活困窮者支援
● 衣食住の当たり前と思われる保障が守られていないのではないかな。	各分野横断的
● 介護サービスに対して家族の抵抗があり本人が利用できない。	高齢者福祉・介護
● 不登校の子ども（家庭）への支援が必要。どこにもつながっていない。	児童福祉・子育て支援
● 障がい福祉ではグレーゾーンの方への対応が課題。	障がい福祉
● 障がい児の進路も市外が多い。施設や働き場所が市内に増えれば唐津に残る人も増える。	障がい福祉
● 就労したいと思っても働ける場所が少ない。	地域福祉・生活困窮者支援
● 「相談に行く」こと自体が壁になっている。	各分野横断的
● 出張相談も含め、相談しやすい体制ができるとよい。	各分野横断的
● 「相談に行くぞ」と構えて相談に行くのは実は行きにくい。	各分野横断的

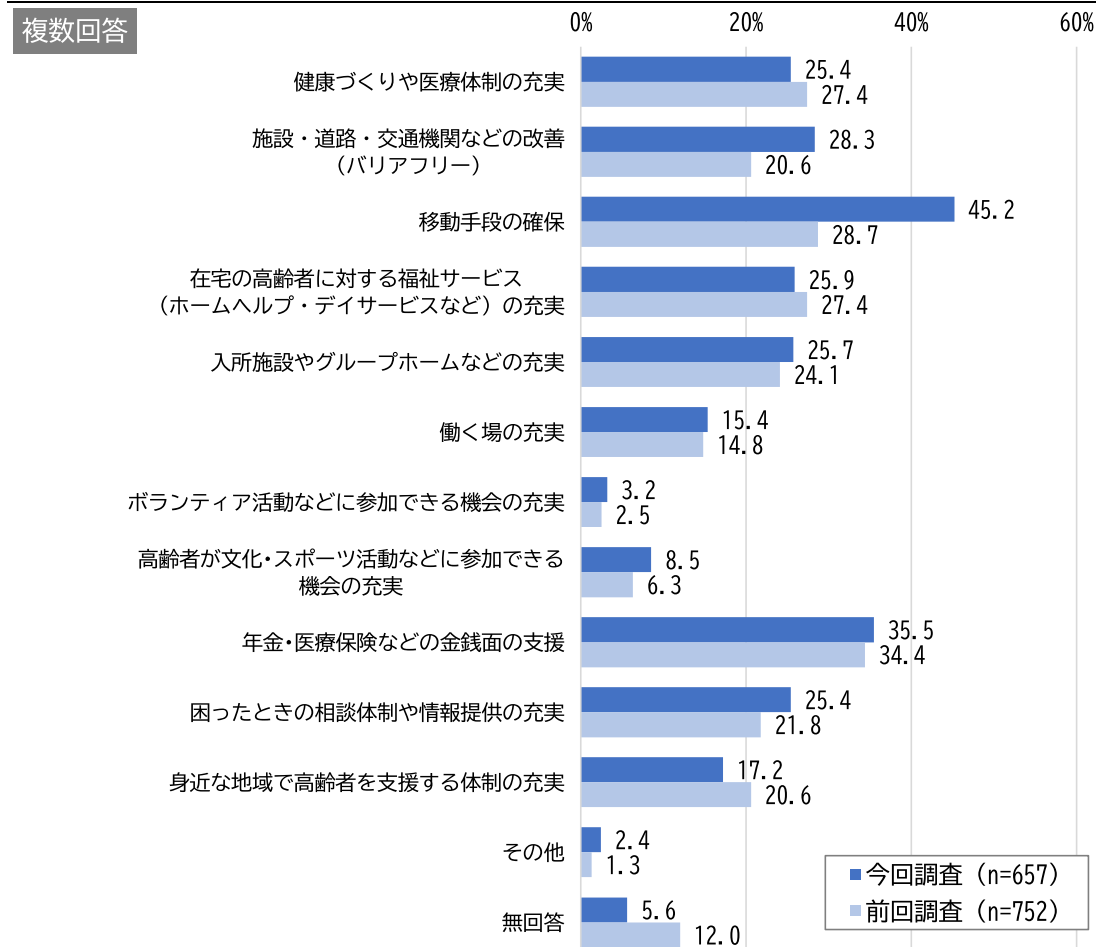
(2) 医療・福祉の充実と連携

現在の福祉の充実度と今後重要と考えること（市民意識調査）

「高齢者にとって住みよいまち」としての現在の充実度は、「どちらともいえない」が42.5%と最も多く、「大変充実している」が2.7%、「ある程度充実している」が23.3%となっています。

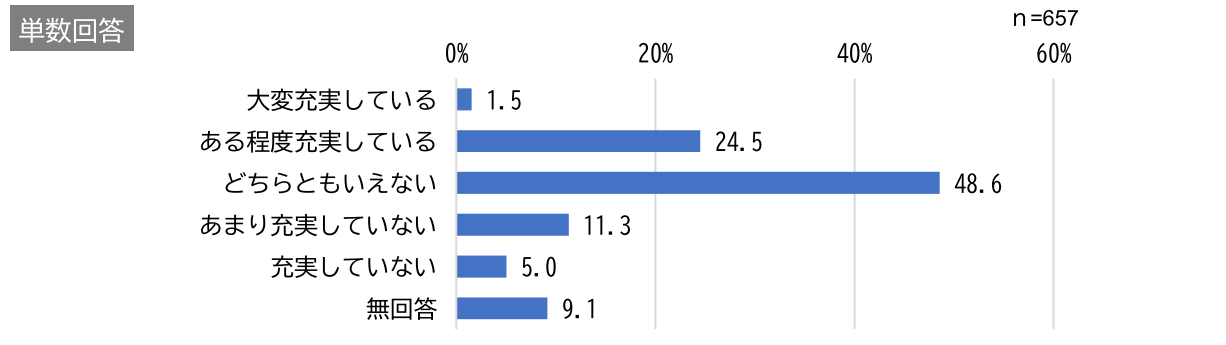


「高齢者にとって住みよいまち」をつくるために重要なことでは、「移動手段の確保」が45.2%と最も多く、「年金・医療保険などの金銭面の支援」が35.5%、「施設・道路・交通機関などの改善（バリアフリー）」が28.3%、「在宅の高齢者に対する福祉サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」が25.9%、「入所施設やグループホームなどの充実」が25.7%となっています。前回調査と比較すると、「移動手段の確保」が16.5ポイント増加しています。

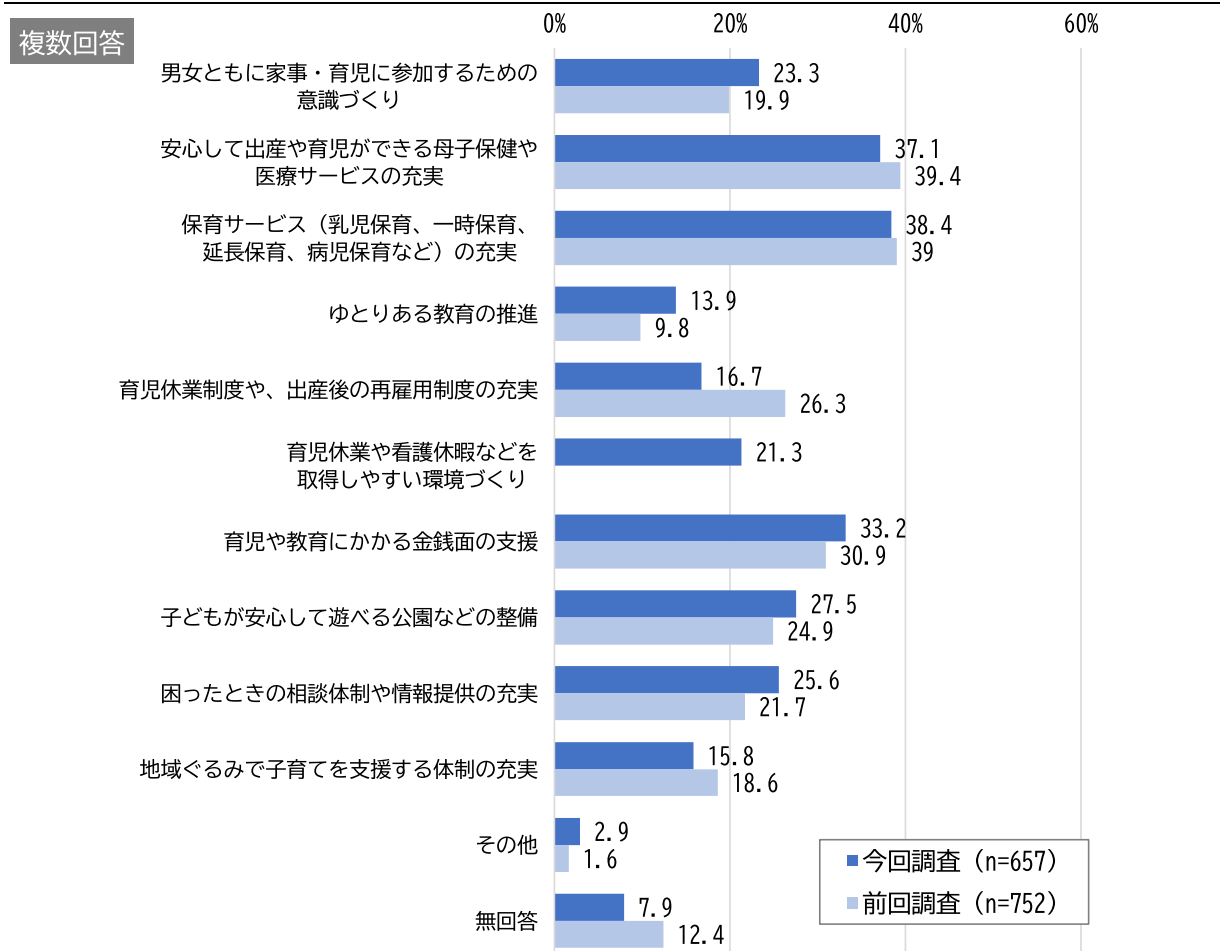


「移動手段の確保」は、高齢者のみならずあらゆる人にとって重要な課題です。

「子どもがいきいきと育つまち」としての現在の充実度は、「どちらともいえない」が48.6%と最も多く、「大変充実している」が1.5%、「ある程度充実している」が24.5%となっています。

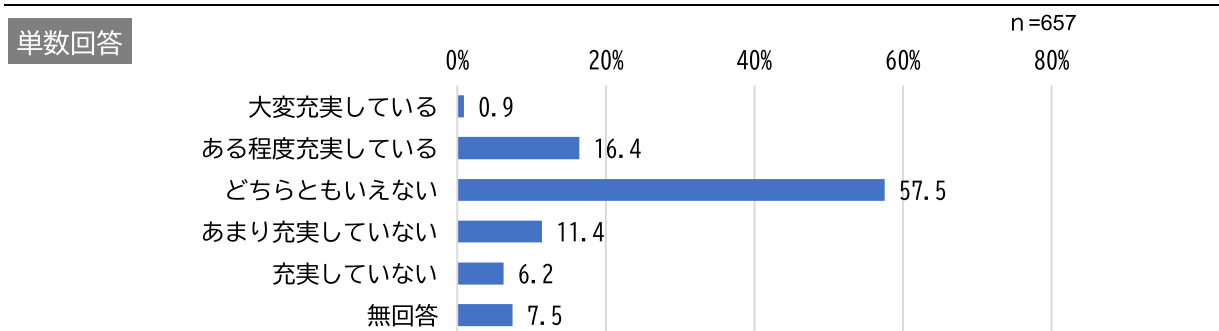


「子どもがいきいきと育つまち」をつくるために重要なことでは、「保育サービス（乳児保育、一時保育、延長保育、病児保育など）の充実」が38.4%と最も多く、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」が37.1%、「育児や教育にかかる金銭面の支援」が33.2%、「子どもが安心して遊べる公園などの整備」が27.5%、「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が25.6%となっています。前回調査と比較すると、「ゆとりある教育の推進」が4.1ポイント、「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が3.9ポイント増加しています。

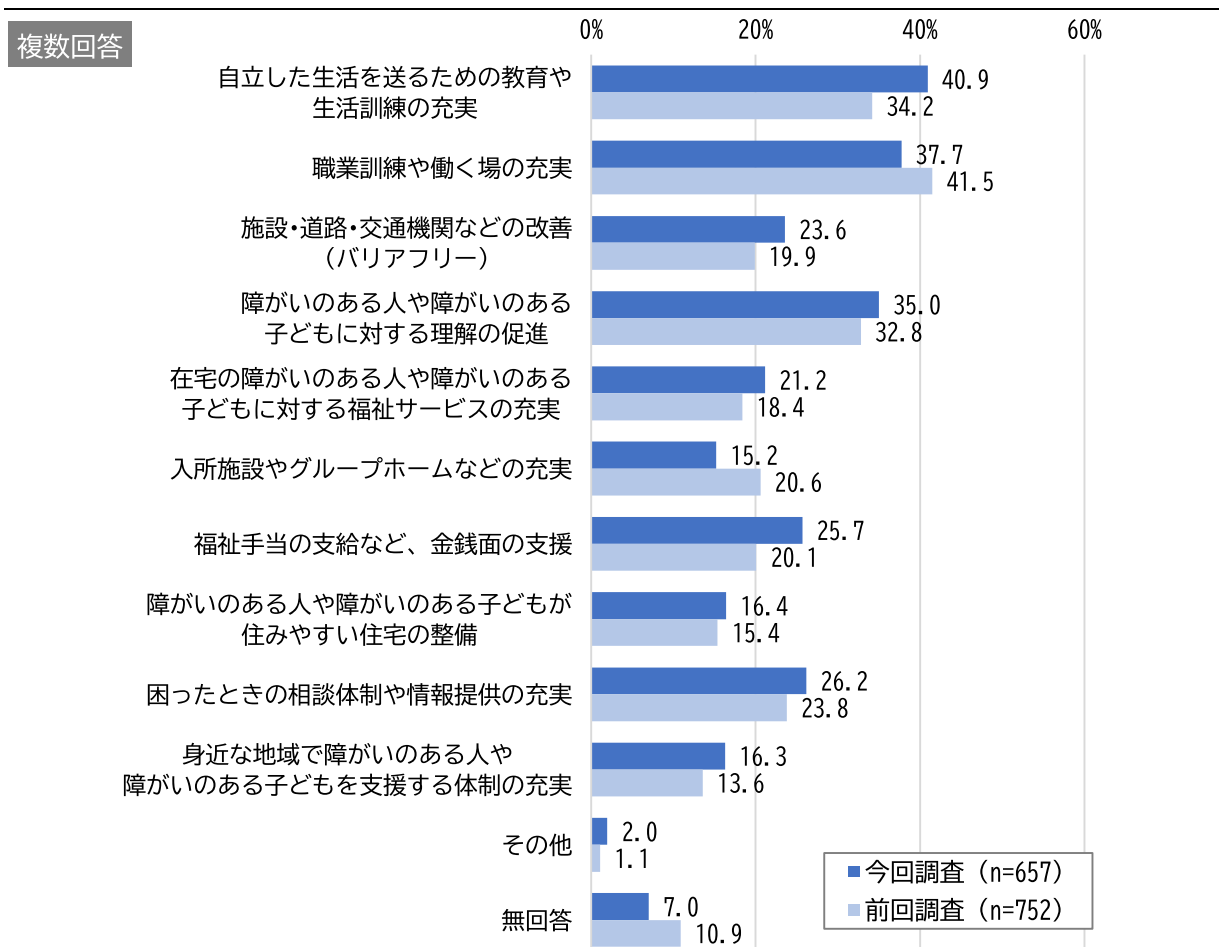


「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が重要と考える人が約4分の1、かつ前回よりも増えています。

「障がいのある人や障がいのある子どもにとって住みよいまち」としての現在の充実度は、「どちらともいえない」が 57.5%と最も多く、「大変充実している」が 0.9%、「ある程度充実している」が 16.4%となっています。

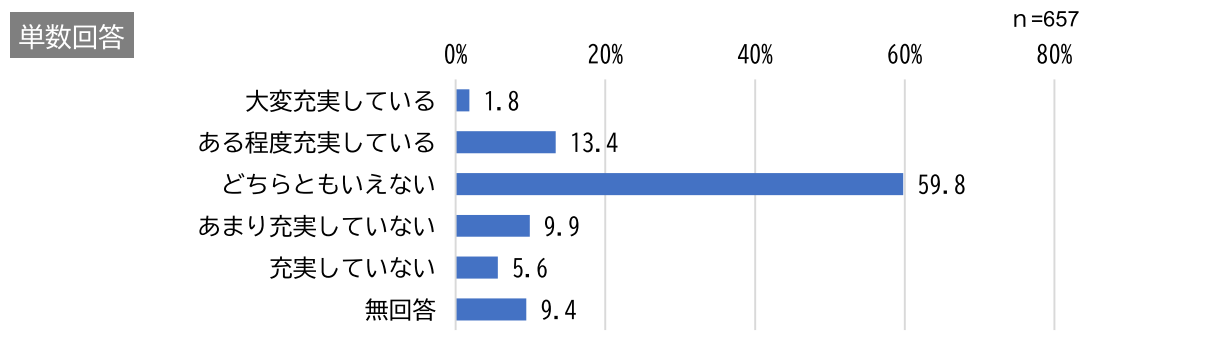


「障がいのある人や障がいのある子どもにとって住みよいまち」をつくるために重要なことでは、「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」が 40.9%と最も多く、「職業訓練や働く場の充実」が 37.7%、「障がいのある人や障がいのある子どもに対する理解の促進」が 35.0%となっています。前回調査と比較すると、「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」が 6.7 ポイント、「福祉手当の支給など、金銭面の支援」が 5.6 ポイント、「施設・道路・交通機関などの改善（バリアフリー）」が 3.7 ポイント増加しています。



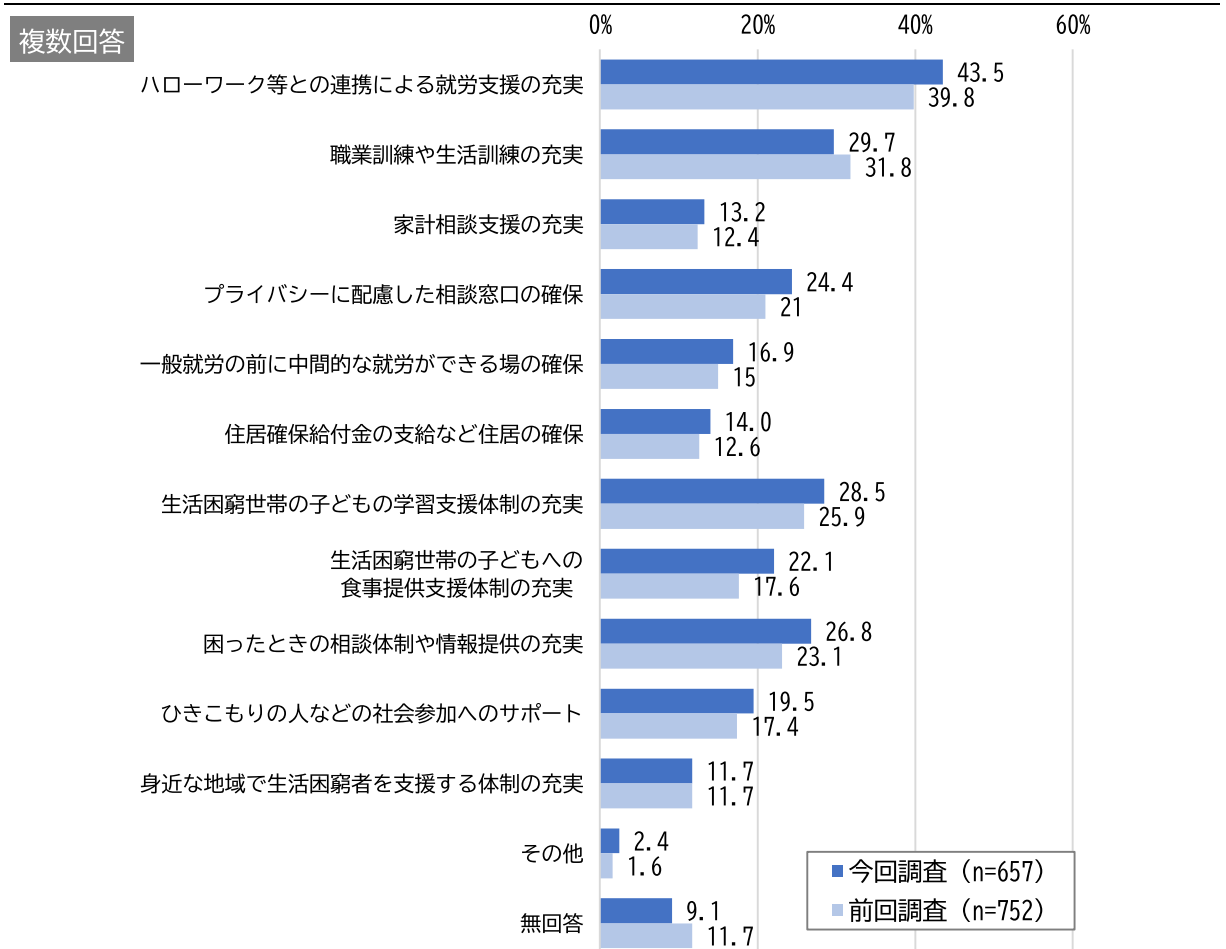
自立のための教育や生活訓練、仕事に関することが多く、周囲の理解に関することが続いています。

「生活困窮者が自立した生活を営むことができるまち」としての現在の充実度は、「どちらともいえない」が59.8%と最も多く、「大変充実している」が1.8%、「ある程度充実している」が13.4%となっています。



「生活困窮者が自立した生活を営むことができるまち」をつくるために重要なことでは、「ハローワーク等との連携による就労支援の充実」が43.5%と最も多く、「職業訓練や生活訓練の充実」が29.7%、「生活困窮世帯の子どもの学習支援体制の充実」が28.5%となっています。

前回調査と比較すると、「生活困窮世帯の子どもへの食事提供支援体制の充実」が4.5ポイント、「ハローワーク等との連携による就労支援の充実」及び「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が3.7ポイント増加しています。

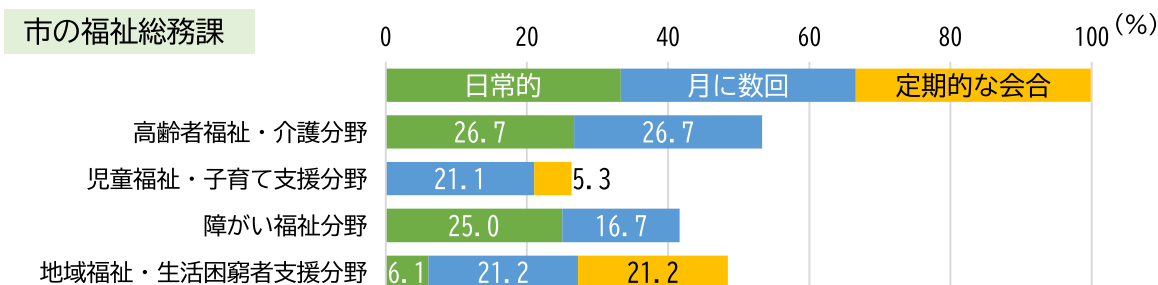


生活の基礎となる就労や職業訓練、生活訓練に関するものが上位2位となっています。

地域の福祉課題についての他団体・機関との情報のやり取り（分野別課題調査）

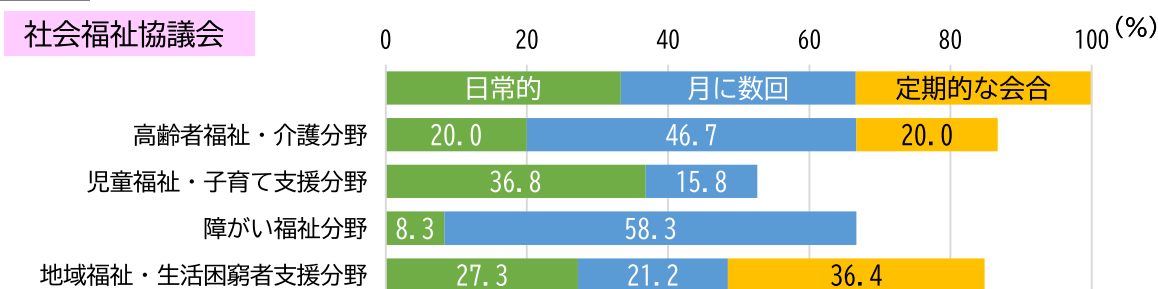
市の福祉総務課との情報のやりとりについては、高齢者福祉・介護分野、障がい福祉分野では「日常的」が多くあり、児童福祉・子育て支援分野、地域福祉・生活困窮者支援分野では「定期的な会合」があります。

単数回答



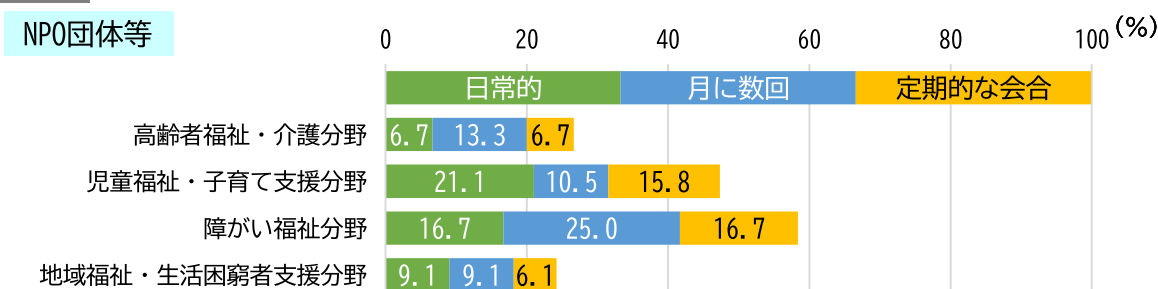
社会福祉協議会との情報のやりとりについては、いずれの分野でもやり取りが多くあり、高齢者福祉・介護分野、地域福祉・生活困窮者支援分野では「定期的な会合」があります。

単数回答



NPO 団体等との情報のやりとりについては、すべての分野で「日常的」なやり取りがあり、児童福祉・子育て支援分野、障がい福祉分野ではその割合も高くなっています。

単数回答



それぞれのやりとりの頻度は、福祉の分野によって異なります。どの分野も、あるいは各分野の団体・機関同士も、連携の基本となる情報のやりとりがより活発になるよう図ることが重要です。

主な意見（分野別課題調査）

● ひとり暮らしなど、何かあった時の協力者がいない。食事の世話や介護が必要になった時、周りにサポートできる人が必要。	高齢者福祉・介護
● 妊娠中や出産後などサポートしてくれる人（祖父母等）がいないと困りごと（病気になった時、買い物、家事）が多い。	児童福祉・子育て支援
● 障がいのある人、障がいのある子ども、家族支援に複数の支援者が関わる場合、スムーズに連携できる状況にまだまだなっていない。	障がい福祉
● 個人情報の取り扱いについて、支援を行う側が役職を超えて共通理解を進める必要がある。	地域福祉・生活困窮者支援
● 地域で中心になって活動する人の周りでその人を支える人が年々少なくなっている。区と関係団体（特に消防団）、地域の代表者がもっと話し合って連携を強めていかなければよくならない。	各分野横断的
● 低所得のため病院受診をやめてしまい、病気が進行することがある。	高齢者福祉・介護
● 配慮を必要とする子どもが増えてきた園に専門の職員の配置が必要。	児童福祉・子育て支援
● 障がいのある人への差別を解消するには、「自分と違う」ではなく、その中でも生活していることを理解・認める心を養うことが必要。	障がい福祉
● 唐津には各分野で熱心に活動している民間団体がたくさんある。	地域福祉・生活困窮者支援
● ヤングケアラーは「親を手伝うよい子」として隠れてしまいがち。若い世代が勉強や運動、遊びなど自分のやりたいことを我慢しないで済むように、学校等に相談しやすい体制づくりが必要。	各分野横断的
● 地域内での仲間同士の会議はよくあるが、全体的にテーマを決めて総合的な会議をしてほしい。唐津市全体の取り組みがわかりたい。自分たちの活動が他の地域と比較できる。	各分野横断的

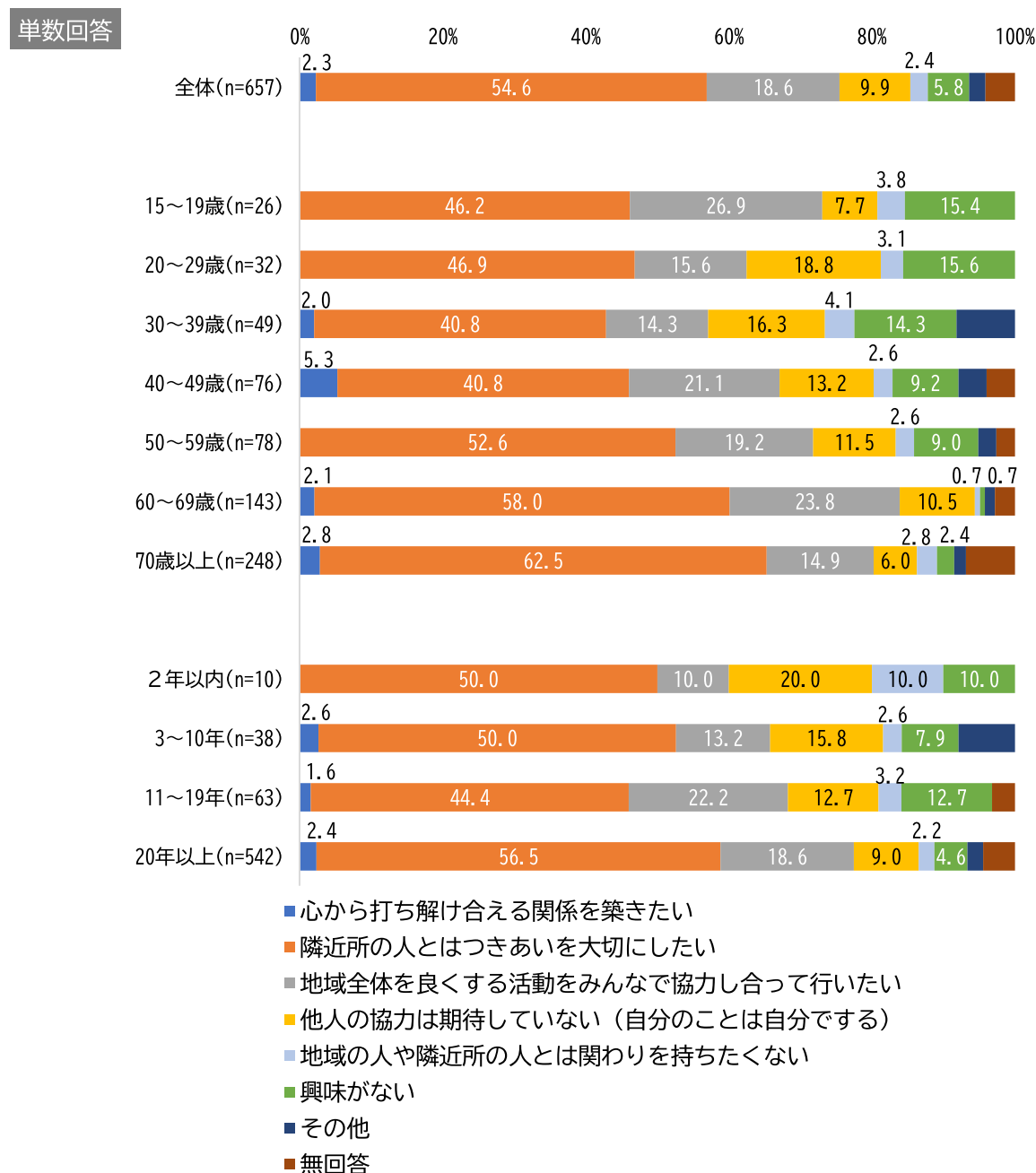
主な意見（福祉を考える会）

● 家族の介護離職の問題がなかなか解決できていない。	高齢者福祉・介護
● ネグレクト、子どもの栄養状態が悪いなどの課題がある。	児童福祉・子育て支援
● まずは身近な人が本人の生活状況の課題などに気づき、情報を共有できることが大事だが、その身近な人が気づくことができず、関わりの少ない人が先に気づくこともある。	障がい福祉
● 父子家庭に対して、母子家庭に対するような支援の充実がない。	児童福祉・子育て支援
● 地域づくりに、市外から来た方の力を活用する。また、市外から来た方をしっかりサポートして住みやすいまちにすることも必要。	各分野横断的
● 多文化共生の課題がある。外国人への対応スタッフも不足している。	地域福祉・生活困窮者支援
● ヤングケアラーの子ども自身が誰にも相談できていない。	児童福祉・子育て支援
● 「親なきあと」など家族の問題には分野横断的対応が必要。	障がい福祉
● 地域での活動をバックアップする体制づくりが必要。人的なこと、活動で困ったことをしっかり聞く。できれば経済的なサポートも。	各分野横断的
● 地域活動を、公民館を中心とした組織編制で行うとよい。	各分野横断的
● ご近所、民生・児童委員、老人会、サロン、行きつけのお店の人などが生活課題に気づくこともある。	各分野横断的
● 地元企業主催のイベント、酒蔵びらきとか JA まつりなどやるとよい。	各分野横断的

(3) 地域での支え合いと一人ひとりの活躍

地域の人との関わりについての考え（市民意識調査）

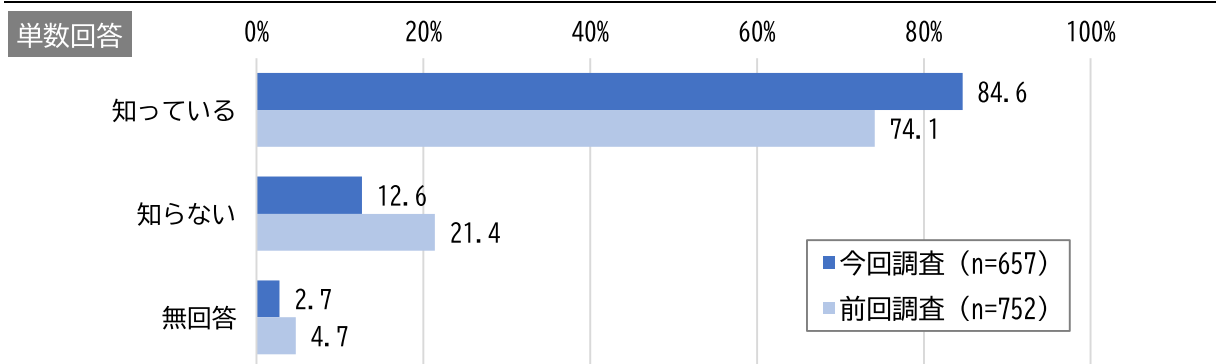
地域の人との関わりについてどう考えるかについて、全体では「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が54.6%と最も多くなっています。「心から打ち解け合える関係を築きたい」の割合は40～49歳が最も高く、「地域の人や隣近所の人とは関わりを持ちたくない」の割合は30～39歳が最も高くなっています。「他人の協力は期待していない（自分のことは自分です）」の割合は居住年数が短いほど高くなっています。



30歳代や、転入してから年数の浅い人など、地域の人との関わりを求めず、また地域に期待していない層が調査から浮き彫りになっています。地域に興味・関心を持ってもらうためにどのようなきっかけづくりができるのか、そこから考えていく必要があります。

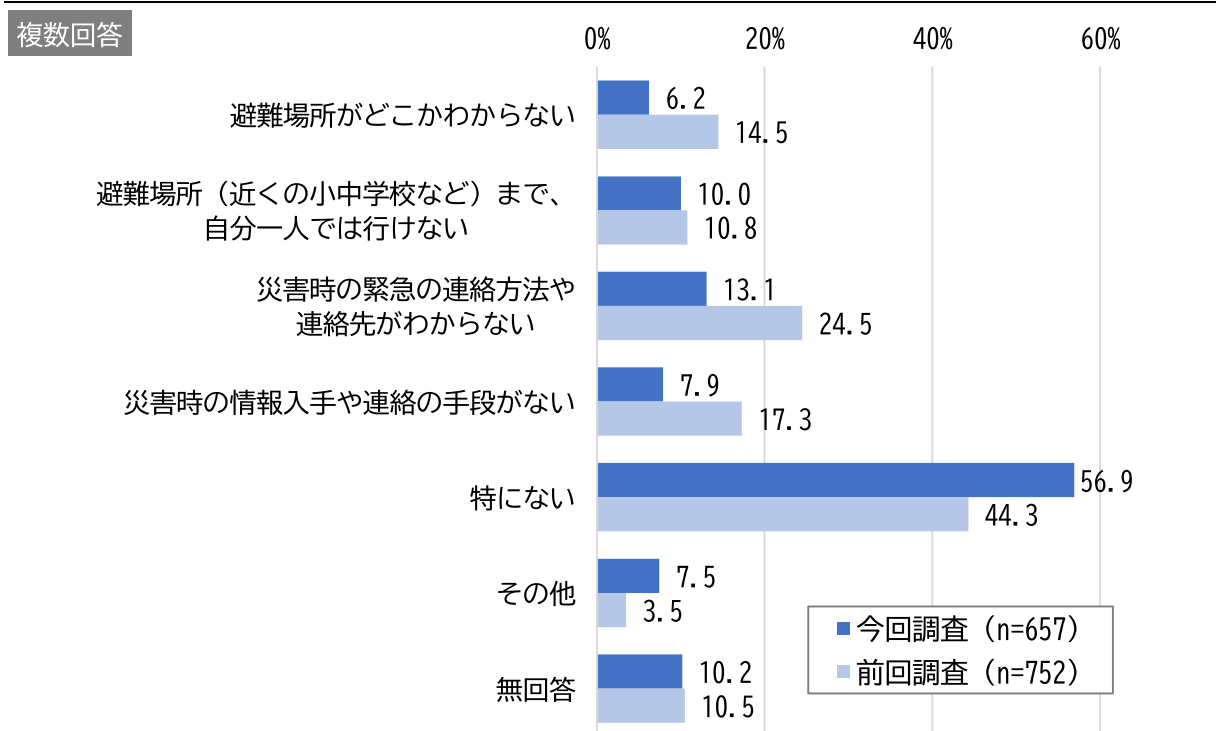
自分の地区の避難場所を知っているか（市民意識調査）

災害時の自分の地区の避難場所を知っているかについて、「知っている」が84.6%で、前回調査と比較すると増加していますが、「知らない」の割合が12.6%となっています。



災害発生時に困ること（市民意識調査）

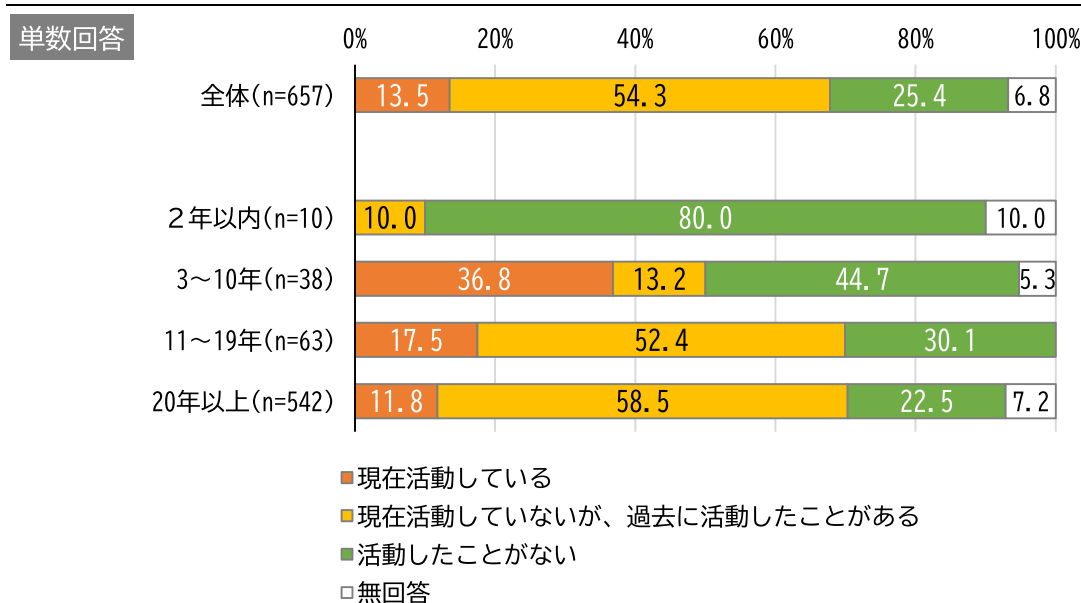
「災害時の緊急の連絡方法や連絡先がわからない」が13.1%、「避難場所(近くの小中学校など)まで、自分一人では行けない」が10.0%、「災害時の情報入手や連絡の手段がない」が7.9%となっています。



避難場所を「知らない」1割強の人に対して、さらなる周知が必要です。
 災害発生時に困ることでは、避難場所や連絡先の周知、情報入手方法や連絡手段の周知といった情報に関する環境整備と併せて、自分一人での避難が困難な約1割の人に対する支援が重要です。
 困ることが「特にない」との回答は56.9%ですが、今回の調査後にも唐津市は大きな豪雨災害に見舞われており、この割合がその後下がっている可能性も考えられます。

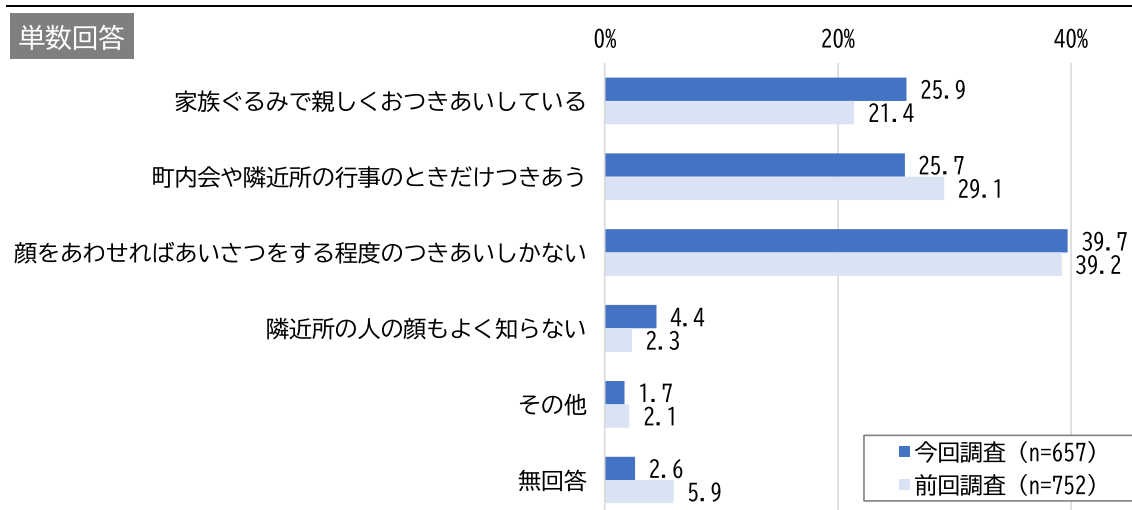
地域活動経験（市民意識調査）

町内会や子どもクラブ、PTAなどの地域活動経験について、「現在活動していないが、過去に活動したことがある」が54.2%で最も多く、「活動したことがない」が25.4%、「現在活動している」が13.5%となっています。居住年数2年以内では「現在活動している」人がいませんでした。



ご近所とのつきあい（市民意識調査）

普段のご近所の方とのつきあいの程度について、「顔をあわせればあいさつをする程度のつきあいしかない」が39.7%で最も多くなっています。「家族ぐるみで親しくつきあっている」は前回より増加しています。

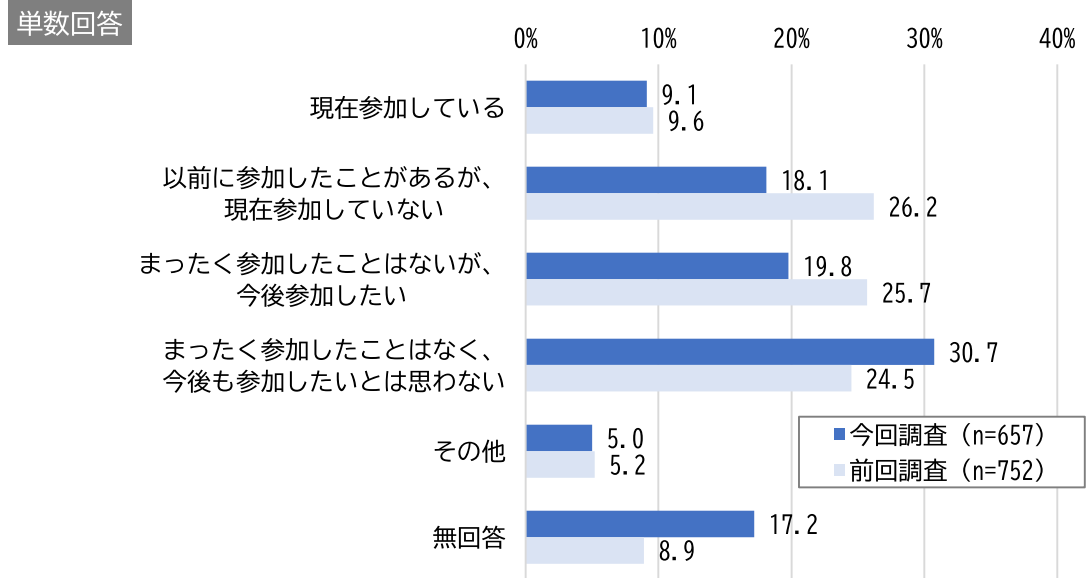


過去に地域活動への参加経験を持つ人が多いことは、再び地域での活躍の場に戻る可能性が少なくないと考えられます。

「顔をあわせればあいさつをする程度」は決して悪い状態ではなく、近所の人との交流や支え合いに進んでいける人が少なからず地域にいると捉えられます。

ボランティア活動への参加経験（市民意識調査）

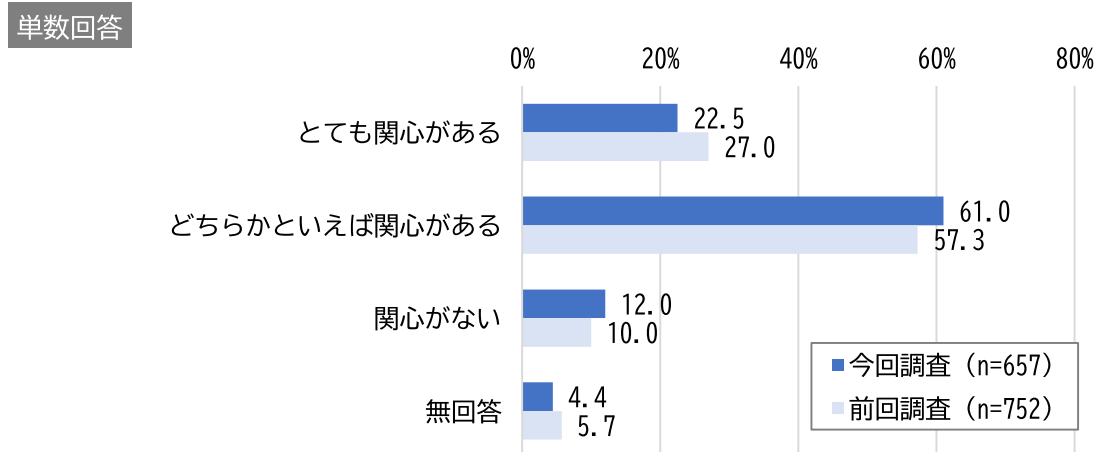
ボランティア活動への参加経験について、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が30.7%と最も多く、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が19.8%、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が18.1%となっており、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が前回より増加しています。



「福祉」への関心（市民意識調査）

「福祉」に関心を持っているかについて、「どちらかといえば関心がある」が61.0%と最も多く、「とても関心がある」が22.5%、「関心がない」が12.0%となっています。

前回調査と比較すると、「とても関心がある」は減少し、「関心がない」は増加しています。

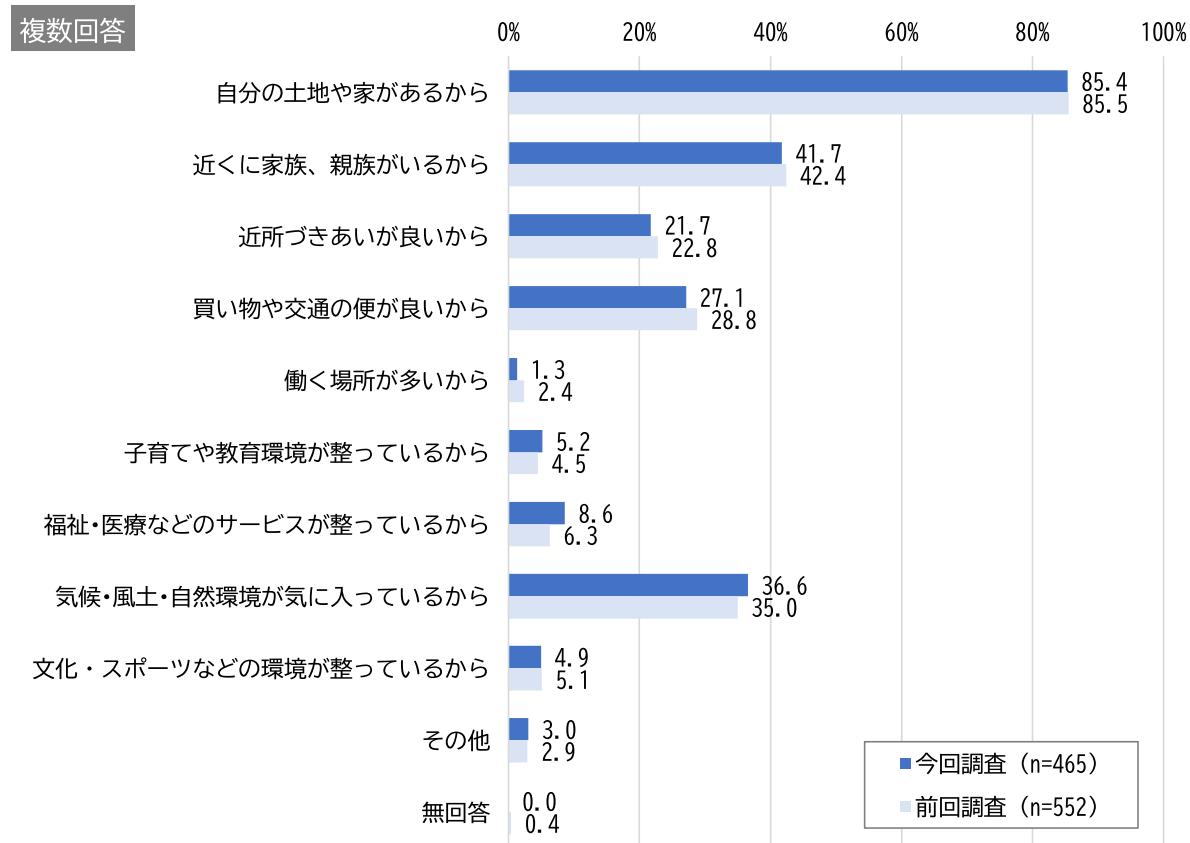


地域活動への参加と同様、ボランティア活動でも参加経験者がおり、このような市民が新たな社会資源の誕生に結びつく可能性は小さくありません。

ボランティア活動への参加経験も参加意向もない人が増えている、福祉への関心がない人が増えている、これらからうかがえる地域・福祉への無関心、つながりの希薄化が課題です。

唐津市に住み続けたい理由（市民意識調査）

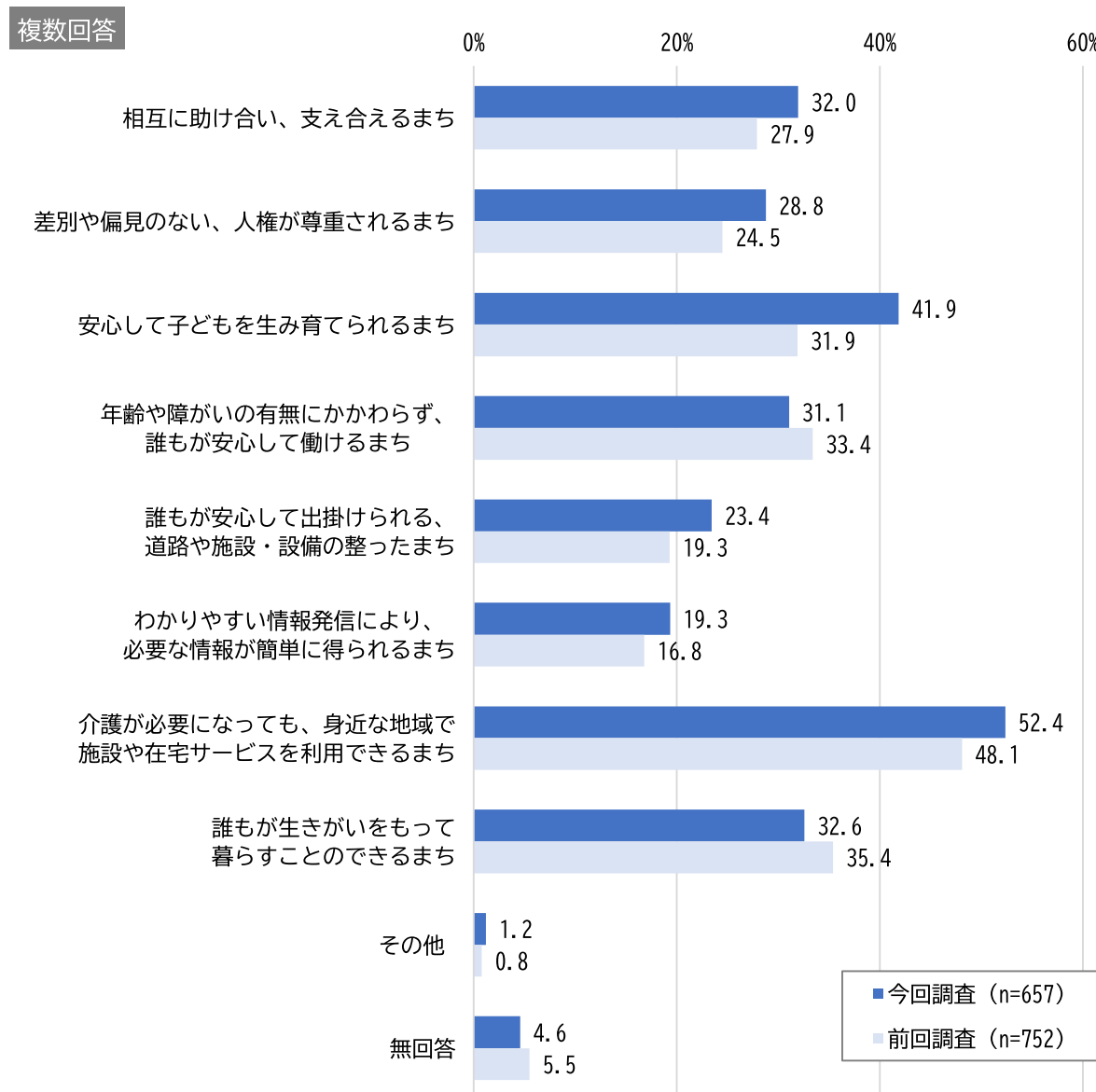
これからも現在お住まいの地区に住み続けたいと思うかで「住み続けたい」を選んだ人に聞いた理由では、「自分の土地や家があるから」が85.4%と最も多く、「近くに家族、親族がいるから」が41.7%、「気候・風土・自然環境が気に入っているから」が36.6%となっており、「買い物や交通の便が良いから」は27.1%で3割を切っています。また「近所づきあいが良いから」は21.7%で、前回調査（22.8%）よりわずかながら減少しています。



自分の土地や家がある、近くに家族・親族がいる、気候・風土・自然環境が気に入っている、買い物や交通の便が良い、近所づきあいが良いなど、居住継続の理由で上位となっているこれらの生活環境は唐津市ならではの強みと捉えることができます。逆に、福祉・医療などのサービス、子育てや教育環境、文化・スポーツなどの環境、働く場所といった、回答の割合が低い項目は、唐津市の弱みの一端が表れたものと考えられ、今後、地域力を生かしていく上で改善を図る必要性が大きいものとなります。

唐津市をどのような福祉のまちにしたいか（市民意識調査）

唐津市をどのような福祉のまちにしたいかについて、「介護が必要になっても、身近な地域で施設や在宅サービスを利用できるまち」が52.4%と最も多く、「安心して子どもを産み育てられるまち」が41.9%、「誰もが生きがいをもって暮らすことのできるまち」が32.6%、「相互に助け合い、支え合えるまち」が32.0%、「年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して働けるまち」が31.1%となっています。「差別や偏見のない、人権が尊重されるまち」が28.8%でそれらに続き、前回調査より4.3ポイント増加しています。



「介護が必要になっても…」が1位、「安心して子どもを産み育てられる…」が2位という結果は、全国と同様に唐津市も直面している高齢化、少子化の課題意識が現れたものとも考えられます。

どの項目も一定以上の回答があり、まちの将来への期待や希望が多方面にわたっていることがわかります。一つひとつの将来像に向かう歩みを、地域力と行政が力を合わせて進めていくことが重要です。

主な意見（分野別課題調査）

● ひきこもりや外出する場がないことが問題。行政主催でなくとも、喫茶やテレビのあるサロンなど誰でも行ってくつろげる場があるとよい。	高齢者福祉・介護
● 子どもたちが習い事などで日々忙しく、友だちとのつながりが大事。大人が関わる場所だけでなく子ども同士で遊ぶ場所が必要。	児童福祉・子育て支援
● 障がいに対する地域の人たちの無関心が心配。世代別に福祉教育を行う必要がある。	障がい福祉
● 少子高齢化のため自治会活動が減少し、公民館事業が少なくなり、自治会内でも人間関係が希薄になってきている。	地域福祉・生活困窮者支援
● 高齢者に出てきてもらい、子どもたちとの交流会を定期的に関き、世代を超えた互いの理解を深める。それがご近所同士の支え合い精神を高めていくことにつながる。	各分野横断的
● 行政、民生委員、隣近所、在宅介護、介護事業所等が、認知症高齢者の方を知ること。異変や気になることがあった場合の情報交換が必要。	高齢者福祉・介護
● 一人ひとりの課題に、学校、家庭の限られた人だけでなく地域として向き合う人との出会いが必要。	児童福祉・子育て支援
● 災害訓練はよく行われているが、障がい者災害訓練も行政が主導して地域の公民館等で積極的に行ったらいいと思う。	障がい福祉
● 新規に転入された方と在住者との意思疎通が困難なことが多くなっている。地域行事への参加交流を図るが応じられないことも多い。	地域福祉・生活困窮者支援
● 災害時、高齢者や障がいのある方の個人情報保護も大切だが、どこにどんな人がいて助けが必要かわかるアプリをつくってはどうか。	各分野横断的

主な意見（福祉を考える会）

● 世代別の各種イベントを実施するとよい。まず世代ごとに集ってもらいそこから年代が広がる。	高齢者福祉・介護
● 子どもを連れて気兼ねなく話をしたり遊ばせられる場所、来やすいところがあるとよい。	児童福祉・子育て支援
● 子どもの集まるイベントなら必然的に親も来て交流が生まれる。	児童福祉・子育て支援
● 障がいなどの事業所をまず知ってもらうことが大事。	障がい福祉
● 地区と関わりを持ちたくない、地区の掃除に参加しない、全く挨拶をしない人などもある。	地域福祉・生活困窮者支援
● 仲間をつくる、子どもたちの未来につなげる、仲間とともに子どもの未来をつくる、といった意識を育てよう。	各分野横断的
● 「地域活動に楽しく参加できない」より「どうせやるなら楽しくやろう」と考える。面白がってやっているうちにいろいろなことに気づいていくというのがよい。	各分野横断的
● 知り合いが活動に参加していると参加しやすい。一緒に行こうよ、と誘い合おう。	各分野横断的
● 災害時の避難についてイベントを公民館で行う、学校や保育園の行事として行う。	各分野横断的
● 長く住んでいても地域に関心があるのは親世代までで、次の世代につながらない。	各分野横断的

(4) みえてきた課題

アンケート結果や市民の意見などから、次のような課題がみえてきました。

①誰もが安心して暮らせる社会について

地域の生活課題は多様化しており、誰もが安心して地域での暮らしを続けられるためには個々の状況に応じたきめ細かい支援や生活環境の整備、さらに、すべての人の権利を守るなどが必要です。

また、困りごとの内容によらず包括的にそれを受け止める体制や、福祉サービスのことを「知らない・わからない」ことで利用できないことなどが無いよう、確実に情報を届ける必要があります。



生活課題の多様化／安心な生活環境／相談先と利用／情報の確実な提供／権利擁護

②医療・福祉の充実と連携について

地域における医療・福祉サービスを誰もが受けられるよう充実すること、また、一つの福祉分野だけでは解決が難しい複合的な課題に対応できるように関係機関や団体が連携していく必要があります。

また、多様な地域資源との連携で、唐津の地域力を生かしていくことも必要です。



医療・福祉の充実／分野横断的な連携体制／多様な地域資源との連携

③地域での支え合いと一人ひとりの活躍について

地域や地域福祉への興味・関心が低くなっている、地域の人々のつながりが希薄になっている、市民同士の交流の機会が減っている、地域との関わりを持たず孤立する人がいる、といった状況が調査や市民の声で指摘され、日常的にも、緊急時にも、身近な支え合いや見守りを促進していく必要があります。

また、市民の交流の場を増やすことやボランティア活動に参加しやすくする環境づくり、地域福祉に目を向けてもらうための意識づくりや次世代への意識の継承なども必要です。



地域への無関心／身近な支え合い・見守り／交流機会／地域福祉への意識向上

2 基本理念と基本目標

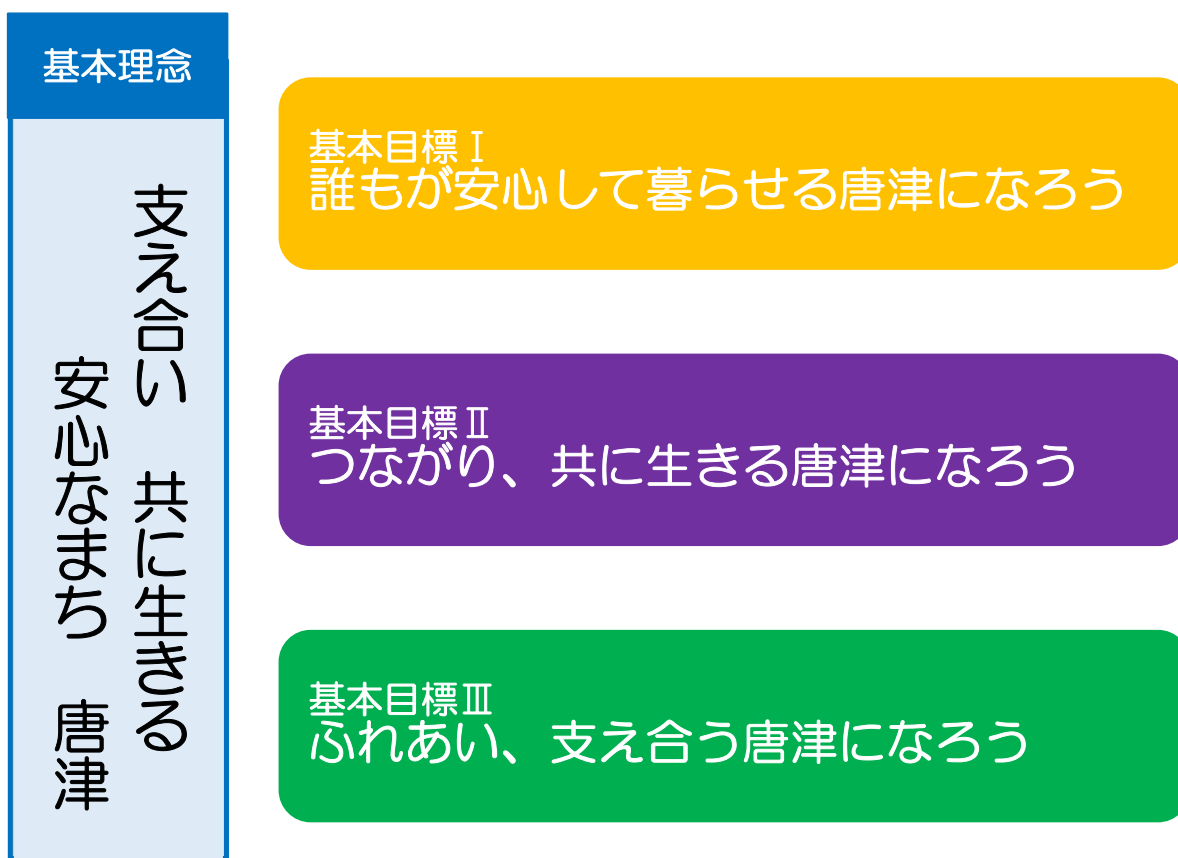
本計画の基本理念を設定するにあたり、「計画策定推進委員会」と「福祉を考える会」において、地域における生活課題を確認した後に、各委員や会の参加者が考える「唐津が目指すべきまちの将来像」を出し合ってもらいました。

多くの案を提示していただきましたが、人と人とのつながりが薄れつつあると感じられる今、すべての市民が住み慣れた地域や家庭の中で、自分らしく、安心して暮らしていける唐津になるためには、お互いに思いやりの心を持ち、ともに助け合い支え合うことが大事ではないかという思いと方向性は皆さんに共通しており、集約すると「支え合い」「共生」「安心」の3つのキーワードが浮かび上がってきました。

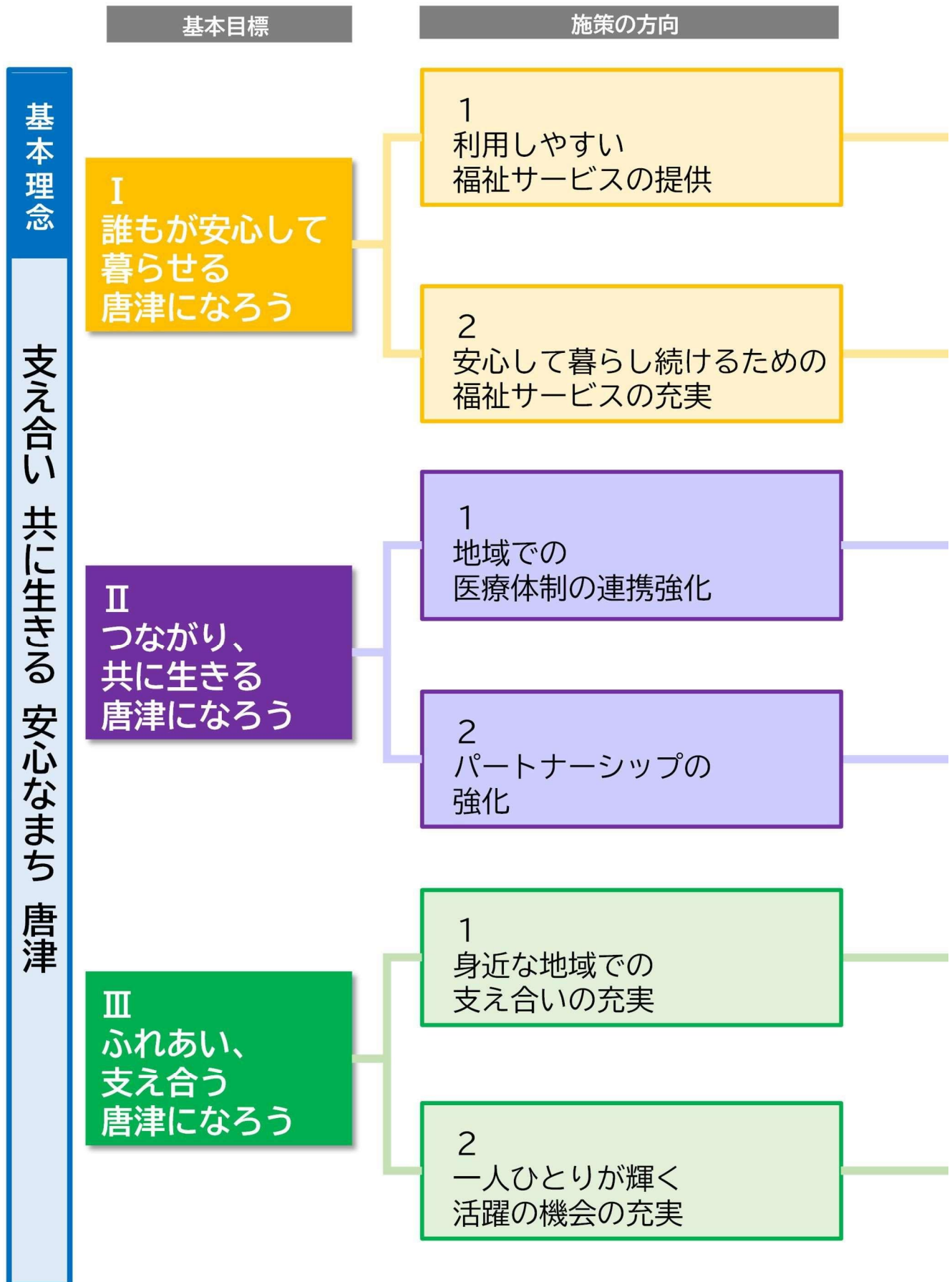
このことから、本計画では、市民の皆さんの視点を盛り込んだ「目指すべきまちの姿」として次のとおり基本理念を設定します。

また、基本理念の実現に向けて、3つの基本目標のもと具体的な取り組みを行っていきます。

「基本理念」とその実現に向けた、3つの基本目標



3 取り組みの体系



施策	主要推進事業
(1) 困りごとを受け止める相談体制	1 重層的支援体制の構築 2 基幹相談支援センターの設置による相談支援体制の充実
(2) 情報提供の充実、利用の促進	3 福祉サービスの利用の促進 4 福祉に関するわかりやすい情報発信
(1) 安心できる生活環境の整備	5 障がいのある人や高齢者の住環境整備への支援 6 障がいのある人の自立（就労）への支援 7 障がいのある人や高齢者の日常生活への支援 8 買物送迎サービスへの支援
(2) さまざまな生活課題への対応	9 生活自立支援事業の推進 10 認知症対策の推進（チームオレンジの整備） 11 更生保護サポートセンターの支援の充実（再犯防止の推進）
(3) 権利擁護の推進	12 成年後見制度利用者支援事業の推進
(1) 医療サービスの充実と体制の強化	13 母子保健推進員体制の充実 14 身近な地域における医療体制の確保
(1) 関係機関との連携体制の強化	15 ヤングケアラーに対する支援 16 医療的ケア児の支援体制の構築
(2) 多様な地域資源との連携	17 子どもの居場所等の実施団体のネットワーク化 18 フードエイド活動や子ども宅食支援の推進
(1) 身近な支え合いや見守りの促進	19 身近な地域における支え合い活動の推進 20 身近な地域における見守り活動の推進
(2) 災害・緊急時の支え合いの充実	21 災害・緊急時に支援が必要な人への支援の強化 22 自主防災組織の設置促進と育成強化 23 災害ボランティアセンター活動の推進
(1) 地域活動や住民参加の活性化	24 地域コミュニティ組織等の活動に対する支援 25 地域支え合い活動の推進
(2) 気軽に交流できる機会や場所の充実	26 地域子育て支援拠点事業の普及 27 障がいのある人や高齢者の生きがいつくりの推進
(3) ボランティア活動の活性化	28 市民ボランティア活動の推進 29 介護支援ボランティア活動の推進
(4) 地域福祉に対する意識の啓発	30 認知症サポーター養成講座の開催 31 福祉教育の推進

